



ご自由にお持ちください

みんなのみなと

「みんなのみなと」は皆さんにとって身近な病院になりたい、皆さんと職員が一つになってこの病院を作っていきたいという思いで命名しました。



今号の表紙は、救急部のドクターたち。
24時間365日、地域の安心を支えています。

病院の理念 赤十字精神のもと、患者中心の良質な医療を提供して、地域の健康増進に貢献する。

巻頭特集

新院長・新看護部長のご挨拶

みなとERをご紹介します

第11号

病院
広報誌



新看護部長のご挨拶

第3代 看護部長 ま せ て る み 間瀬 照美

4月1日より看護部長に就任いたしました、間瀬照美と申します。いつも「みんなのみなと」をご覧いただいている皆様にご挨拶できることを大変嬉しく思っています。

私は、新人看護師として旧横浜赤十字病院に就職しました。横浜市立みなと赤十字病院の開院以来、30年間勤務しています。

開院時は2つの病棟の看護師長として全力で「安全」を守っていました。あれから、12年が経過し、先代の病院長、看護部長をはじめとした多くの職員の尽力と地域の皆様の温かいご支援により、職員も設備も格段に充実してきました。これからは一人ひとりの患者さん、地域の皆様と顔の見える関係を深めながら医療の質を更に高めていきたいと思っています。

さて、13年目に入りました本院が、これまでの歴史の中で培ってきた3つの強みをご紹介します。

まず1つ目は「チーム医療」です。

開院当時は、少ない職員数で多くの患者さんに医療を提供することが求められていました。特に、看護の面では、各病棟で10名の新人看護師を育てながら、という状況でしたので、職員一人ひとりが常に最大限の力を発揮し、職種や部署を問わずに力を合わせなければ、病院の機能を維持することができませんでした。

そこで、得意分野を活かして、互いが手を取り合って、院内中の患者さんを支援しようと多職種により構成された「チーム」ができあがりました。そのような本院独特の文化によって、職種の垣根を越えた「チーム力」が非常に強い病院になりました。

開院当初から、呼吸ケア、感染、口腔ケア・嚥下、褥瘡、栄養、緩和ケア、糖尿病、院内救急、精神科リエゾンなどの各種サポートチームが病棟を回診し、患者さんのご相談をお伺いし、痛みや辛さが和らぐよう積極的に活動しています。

2つ目は「充実した教育」です。全職員対象の研修会やセミナー、地域の皆様や他院の医療従事者も共に学ぶ「みなとセミナー」も頻繁に開催しています。

その他、スキルを学ぶ場所としてスキルラボ室があります。安心・安全な医療を提供できるよう、採血や気管挿管、腹腔鏡手術などの練習ができるシミュレーターを備え、教育環境を整えています。教育研修は職種ごとに、きめ細やかな指導計画に基づいて個別に合わせて行っています。

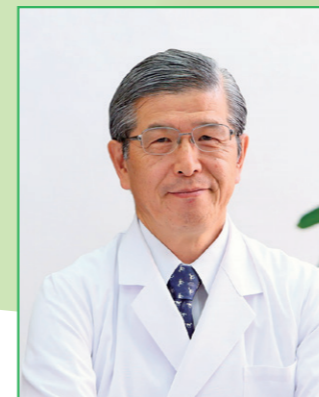
3つ目は災害も含めた「救急医療」です。

本院は開院依頼「断らない救急」をモットーとして、近年では年間約12,000台の救急車を受け入れています。

さらに、赤十字の人道的使命として災害救護にも力を入れています。人々のいのちと健康を守ることができるよう日頃から訓練を重ねており、熊本地震発災時には、被災地に救護班を派遣しました。

上記の強みをさらに活かしながら、地域の皆様に信頼される病院を目指して、努力してまいります。今後とも、皆様のご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

看護部長 間瀬 照美



新院長のご挨拶

第3代 院長 の だ ま さ き 野田 政樹

横浜市立みなと赤十字病院の広報誌「みんなのみなと」をご覧頂き有難うございます。

当院は横浜市により設立され、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院です。

掲げる理念は「赤十字精神のもと、患者中心の医療を提供し地域の健康に貢献する」ことです。赤十字の精神は、人道を基本とし、奉仕はその大切な柱であり、当院は地域の皆様の健康増進と高度な医療を提供することを使命としています。

救命救急センターでは救急車の受け入れ台数が年間12,000台を超え、心臓疾患、脳血管疾患、外傷に救急部、集中治療部が緊密に連携して応需体制を整えています。

また、地域がん診療連携拠点病院として、PET/CTや3テスラMRIを設置し、検査・診断の向上を図るとともに、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による低侵襲手術、最新の抗癌薬を用いた治療により、患者さんへの最先端の医療を提供しています。

心臓病センターでは、循環器内科ならびに心臓血管外科が24時間体制で緊急手術に対応する等、各部門においてレベルの高い医療を提供しております。なお、昨年度はこれらの実績によりDPCⅡ群病院に認定され、大学病院に次ぐ、高いレベルの医療を行える病院として認められました。

災害救護活動では、発災時に被災地へ救護班を派遣し、救護活動を行います。日頃から、首都直下型の巨大地震に対する備えとして職員の訓練を継続して行い、免震耐震構造の施設、自家発電機能、備蓄倉庫を備えています。

また、医療過疎地への医師の派遣活動も積極的に行い、各地で当院の医師が活躍しています。

国際的な対応については、電子端末による翻訳サービスを整え、より多くの言語に対応できるよう努めています。

病院の質の評価においては本年、日本医療機能評価機構の認証を得ており、今後は国際的な病院機能評価としてJoint Commission International (JCI)の認証の準備をしています。国内外の評価を受けることにより地域の皆様に質の高い医療を提供し続けることを当院の目標とし尽力して参ります。

皆様のご支援ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

病院長 野田 政樹

通訳サービス向上のために タブレット端末を導入しました!



当院は外国人の患者さんが多く来院されます。現在、通訳サービスとして外部委託と職員による通訳を実施しています。外部委託は事前予約制で患者さんに費用の負担が発生し、職員による通訳は通訳内容が事務的なものに限定されています。そこで更なる患者サービスの向上を目的に、従来の通訳サービスに加えて平成29年1月よりタブレット端末を使用した通訳を開始しました。事前予約や費用が不要で気軽に使用できるため、外来受診された患者さんのご案内や各種手続き、入院中の患者さんへの説明など、幅広く活用しています。医療の通訳に限らず日常会話にも使用することで、患者さんより深い信頼関係を築けるようになりました。また病院からの説明だけではなく患者さんからのお話を伺えるため、患者さんの“伝わらないストレス”が軽減され、患者さんがより安心できる環境で医療を受けられるようになりました。



第2回

横浜・川崎がん病病連携会市民公開講座を開催

2月18日(土) 横浜市開港記念会館にて、「第2回横浜・川崎がん病病連携会市民公開講座 みんなで学ぼう! ~肺がん、膵がん、在宅がん医療— 最新の話~」を開催しました。

横浜・川崎がん病病連携会は、「地域のがん診療機能向上」を目的に設立され、現在、横浜南部地域にある8病院と川崎市にある2病院の計10病院が参加し、当院が代表施設を務めています。連携施設全体で日々「がん患者さんの相談支援」や「早期発見」、「診断・治療」に取り組んでいます。

当連携会が主催する市民公開講座は2回目、今回は肺がん、膵がん、在宅がん医療について、現役の医師・看護師ら計4名から講演をいただきました。参加者からの質問に演者が回答するコーナーも設けられ、充実した講座となりました。



左から、
横浜市立市民病院 中村医長、
新百合ヶ丘総合病院 田辺副院長、
磯子中央病院やすらぎ訪問看護ステーション
時任管理者、
日本在宅医療学会 城谷理事長

INFORMATION

アレルギーセンター講演会のお知らせ

- 関節リウマチ教室
 - 第1回
4月25日(火)
関節リウマチの薬物療法 講師：萩山医師
 - 第2回
7月3日(月)
関節リウマチの手術療法 講師：浅野医師
- 成人喘息教室
 - 第1回
6月7日(水)
咳ぜん息といわれたら 講師：小松崎医師
- 小児喘息・アレルギー教室
 - 第1回
6月22日(木)
小児の気管支喘息 講師：磯崎医師

◆ 会場：当院3階 大会議室
◆ 問い合わせ先：当院アレルギーセンター
045-628-6381



糖尿病講習会のお知らせ

■ 平成29年4月から9月のスケジュール

- 5月25日(木) 第4週
 - 14:00-15:00 「糖尿病との付き合い方」(渡辺副院長)
 - 15:00-15:30 「糖尿病に効果のある運動療法を身に着けよう ~生活の一部に取り入れることを目標に~」(小泉理学療法士)
 - 15:30-16:00 「食事療法ってなんだろう?」(手塚管理栄養士)
- 6月15日(木)
 - 14:00-15:00 「糖尿病とメタボ、脂肪肝 ~脂肪がたまるとうなるの?~」(水口医師)
 - 15:00-16:00 「ご存知ですか? ~あなたの適正体重・適正エネルギー(実践編)~ (楽しくグループワーク)」(大川管理栄養士)
- 7月20日(木)
 - 14:00-15:00 「運動を始めましょう ~運動療法の色々な効果~」(上田医師)
 - 15:00-15:30 「美脚の作り方 ~フットケアの実践~」(畑崎看護師)
 - 15:30-16:00 「エネルギーだけではない!! ~食事の取り方・ひと工夫~」(興水管理栄養士)
- 9月21日(木)
 - 14:00-15:00 「糖尿病と皮膚疾患」(渡邊医師)
 - 15:00-15:30 「シックデイ時の薬の扱いについて」(羽田薬剤師)
 - 15:30-16:00 「糖尿病でもちょっとひと息! ~お酒や間食との付き合い方~」(黒田管理栄養士)

◆ 会場：横浜市立みなと赤十字病院 3階 大会議室
◆ 日時：毎月第3木曜日 14:00~16:00 ※4・8・12月はお休みです。
◆ 講師：医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・
歯科衛生士
◆ 問い合わせ先：
横浜市立みなと赤十字病院 外来業務課 045-628-6330

参加費・事前予約不要です!

当院通院中の方、他院通院中の方、どなたでも受講可能です。
お気軽にご参加ください!

病院機能評価【一般病院2 3rdG: Ver1.1】の更新認定を受けました

当院は平成29年4月7日付で、公益財団法人日本医療機能評価機構(以下 評価機構)から病院機能評価【一般病院2 3rdG: Ver1.1】の更新認定を受けました。病院機能評価とは「病院が質の高いサービスを提供するための支援を目的に、評価機構が第三者機関として中立的な立場で医療機関を評価している認定制度」です。国民が安全で安心な医療を受けられるよう、4つの評価対象領域(「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践1」「良質な医療の実践2」「理念達成に向けた組織運営」)から構成される評価項目を用いて、各専門領域(診療管理、看護管理、事務管理)の知識と経験を有する評価調査者(サーベイヤー)が、チームとなって実際に病院を訪問・審査し、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価します。

当院では【一般病院2 3rdG: Ver1.1】の認定に向け、プロジェクトチームを発足し、平成28年11月10日、11日の受審に向け、1年間かけ準備を進めてまいりました。診療部門、看護部門、薬剤やリハビリなどの医療技術部門、事務部門がそれぞれ問題点を洗い出し、それを一つひとつ改善することで認定を受けることができました。





みなとER[※]をご紹介します

※ emergency room…救急室

当院では横浜市の政策医療として「24時間365日」の救急医療を実施しています。平成21年4月には救命救急センターの指定を受け、重症および複数の診療科領域にわたる救急患者を24時間体制で受け入れるとともに、横浜市の二次救急拠点病院としても救命救急センター同様、24時間体制で対応しています。

救急車は年間11,000台から12,000台（1日30台から40台）を受け入れており、国内でもトップクラスです。救急車以外で来院される救急患者さんもほぼ同数受け入れています。当院の救命救急センターはER型救急（※1）として運営され、一次から三次（※2）までの患者さんを幅広く受け入れており、救急車をできるだけ断らないことを理念としています。その達成のため、夜間や休日でも、「ER」「集中治療」「内科系」「外科系」「小児科」「産婦人科」「神経系」など17つのラインを整備し、また専門の診療科医師に24時間いつでも連絡がとれるように体制を整えています。

体調はいつ変調するかわからないもの。そんな時でも市民の皆さまにとって安心の医療を提供できるようこれからも「みなとER」を発展させてまいります。

（※1）ER型救急ってどのような診療するの？

軽症から重症までER（救急室）に受診する全科の救急患者を受け入れる。ERに受診した全患者にER型救急医が診察を行い、入院治療や手術が必要な患者は該当科に振り分ける。

（※2）一次・二次・三次ってどんな症状？

一次→主に入院治療の必要がなく、帰宅可能な患者。

二次→主に入院治療を必要とする重症患者。

三次→主に二次救急医療機関では対応できない高度処置が必要な重篤患者。



～編集後記～

慌ただしい年度末、年度始めが過ぎ去り、早いもので5月になりました。GWも終わり、環境が変わった方々は少し疲れが出てくるころではないでしょうか？

気が早いですが、編集者は今年の夏休みはどこに行こうかな～と考えたりしています。

海外旅行の楽しみのひとつに、現地の方の「挨拶」があります。印象的だったのは3年前に行ったスリランカ（シンハラ語）。スリランカの挨拶は両手を胸元に当てて合掌して、ayubovan（アーユボーワン）。

アーユ（ayu）は、dirgha ayushya・・・年齢、命

ボー（bo）は、bovenava・・・増える、延びる

ワン（van）は、veva・・・～でありますように。

「歳を重ねますように」とか、「命が長くありますように」という意味を込めて、初対面の人にも、目上の人にもつかうことが出来るとても丁寧な挨拶だそうです。

滞在先のスタッフが、お掃除中にすれ違おうとホウキを手放してまで合掌してくれる姿に感動せずにはいられませんでした。

挨拶は、自然に笑顔になる機会をくれて気持ちも上向きにしてくれる、ありがたい言葉ですね。

